


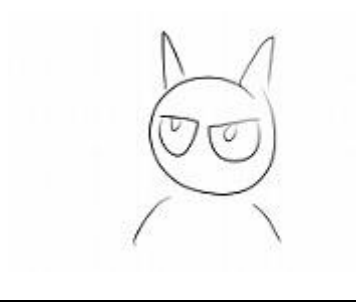









場面：対妖賊弾供与

番号	画面	内容・台詞	時間
1		刑事の部屋。 卓上に料理が置かれている。 東森が食べ散らかしつつ、大量の銃を並べて 手入れをしている。	
2		扉をとんとん叩く音。 お凜様「入るで」 東森「どうぞ」 扉が開き、お凜様が入ってくる。	
3		お凜様「外の様子は？」 東森「特に変わったところは」 お凜様が適当なところに座る。 東森「何かご用でも？」 お凜様「いや、ちょっとおしゃべりに」	
4		お凜様「下で皆と食うたらどうじゃ？」	
5		東森「いえ、自分は一人の方が気楽なので」	




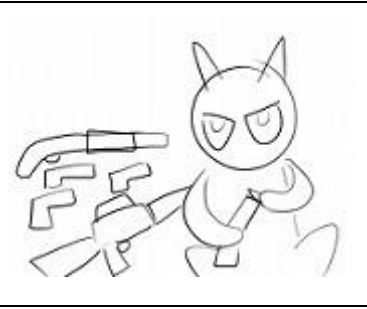

場面：対妖賊弾供与

番号	画面	内容・台詞	時間
6		お凜様「まあ、それぞれでええがな」 東森「好きにやらせてもらいます」	
7		お凜様「凄い銃じゃな。警察の装備品には見えんが……」 お凜様がおもむろに銃を触りだす。 東森「戦利品ですよ。押収したものをこっそり隠し持っています」	
8		お凜様「そんなことやってええんか？」	
9		東森「黙認されてます。犯罪者は法律を無視してきますから、こちらも法律を無視するくらいじゃないと対抗できません。まあ、使ったことはないですが」	
10		お凜様「今日は使うことになるで」 お凜様が手に持っている銃の弾倉から弾を抜き出す。 東森「なんで弾を……」	




場面：対妖賊弾供与

番号	画面	内容・台詞	時間
11		お凜様「妖賊は超自然的な存在じゃ。普通の弾じゃ役に立たん」 お凜様が懐から謎の袋を取り出し、大量の銃弾を取り出す。 お凜様「全部これに入れ替えとくれ」 東森「ええ」	
12		お凜様と東森が次々と銃の弾を込め直していく。 東森「見た目に違いはないようですが」 お凜様「弾頭に神力が込もつとる。普通の人間でも神力弾を撃てる」 東森「神力弾？」	
13		お凜様が腰の拳銃を抜く。 お凜様「わしらが使うとる銃はのう、火薬を発破して鉛玉を飛ばすもんじゃない。神力っちゅう霊的な力を弾丸化して飛ばすための道具じゃ。そん弾を神力弾と呼んどる」	
14		お凜様が拳銃の弾倉を開いたり回転させたりする。 お凜様「こん拳銃はな、見た目は普通の回転式拳銃じゃが、銃弾はただの飾りじゃ。実際には衝撃波が発射されとる」	
15		お凜様「じゃけえ、装弾数なんかなく、無制限に撃ちまくれるで」	


場面：対妖賊弾供与

番号	画面	内容・台詞	時間
16		東森「無制限に？ そりゃ便利だ」	
17		お凜様「本当に無制限というわけじゃない。神力を使うて弾丸化するけえ、撃てば撃つほど神力を消耗していく。つまり、だんだん疲れて撃てなくなってくる。それが、通常の神力弾じゃ」	
18		東森「弾切れもあるのか……」 お凜様「そこまで都合良くはないんじゃよ」	
19		お凜様「こん神力弾はな、普通の弾の何倍もの威力がある。そん威力がないと妖賊には傷ひとつつけられん」	
20		お凜様「そん神力弾と同様の威力を持った弾を普通の銃で撃てるようにしたもんが、今渡した弾じゃ」	






場面：対妖賊弾供与

番号	画面	内容・台詞	時間
21		東森が銃弾をつまんでまじまじと見る。	
22		お凜様「そんな弾は代用品じゃけえ、普通の銃弾と同じで使い捨てじゃ。込めた分しか撃てん」	
23		東森「何発分あるんですか？」 お凜様「拳銃弾と散弾で 1000 発、小銃弾で 5000 発はあるじゃろう。手榴弾も 500 発はあるはずじゃ」 東森「いや、その袋の中にです」	
24		お凜様「こん袋はな、鬼姫山の武器庫に異次元空間で直結しとるんじゃ。在庫があればいくらでも召喚できる」	
25		東森「そんな漫画みたいな……」 お凜様「漫画家が真似しとるだけじゃ」 お凜様が袋を広く開ける。 お凜様「試してみんか？」 東森「ええ……」 東森が袋に手を突っ込む。	


場面：対妖賊弾供与

番号	画面	内容・台詞	時間
26		東森「ん、生暖かい。底がないぞ……。グニグニしてる。なんかジャラジャラしたぞ」 東森が手を引き出すと、大量の銃弾が握られている。 東森「おおっ」 東森が銃弾を床にばらまく。	
27		お凜様「こん袋があれば、こういうことができるで」 お凜様が袋から小銃や狙撃銃、散弾銃を取り出していく。 お凜様「でかい武器を持ち歩く必要はない。持ち替え自由じゃ」	
28		東森「凄い。ゲームの装備変更みたいです」	
29		お凜様「こん袋を刑事さんに預けるで。まだいくつかある」 お凜様が東森に袋を渡す。 東森「ありがとうございます」	
30		その時、お凜様の食べ残しを清子が運んでくる。 清子「失礼します。お凜様のお料理の残り、ここに置いときますね」 お凜様「ありがとう」 清子が卓上に料理を置く。	

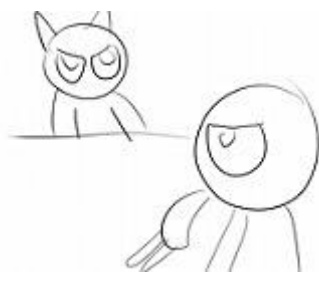


場面：対妖賊弾供与

番号	画面	内容・台詞	時間
31		東森「ここで食べるんですかい？」 お凜様「嫌か？」 東森「いえ……」	
32		お凜様が水の入ったコップを持つ。 お凜様「水じゃが、乾杯！」 東森が水の入ったコップを持つ。 東森「乾杯！」	
33		お凜様と東森が料理をつまむ。 お凜様「大勢が苦手なんか？」 東森「ええ、人見知りなんで。悪気はないんですがね」	
34		お凜様「期待はしとらんが、警察の応援警護はないんか？」 東森「ないです。緊急時には武器をいくらでも使っていいが、単独で対処しろと」 お凜様「上が信じとらんな」 東森「ええ……刑事課の一匹狼ですよ」	
35		お凜様「なんで刑事に？」	



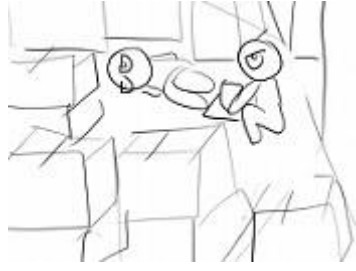


場面：対妖賊弾供与

番号	画面	内容・台詞	時間
36		東森「単純に、小さい頃に見た刑事映画に憧れたからですよ。凶悪犯罪者相手に、拳銃持って戦う刑事ってカッコいいじゃないですか。その憧れだけで警察官目指したんです」	
37		お凜様「わし、そういう純粹さ、好きじゃな」	
38		東森「警察入って、しばらく交番勤務やっってから、念願の刑事になれたんですよ。もう、うれしくて、犯罪捜査に一生懸命になったんです」	
39		お凜様「立派じゃないか」	
40		東森「けどね、本気度が空回りして、ついついやりすぎてしまうんです。不当捜査だ、違法捜査だって、がみがみ言われて、周りから面倒臭い厄介者扱いされるようになってしまいました」	


場面：対妖賊弾供与

番号	画面	内容・台詞	時間
41		お凜様「警察も、色々ややこしそうじゃのう」	
42		東森「犯人検挙率は高いので、刑事から外されることはないし、クビにもならないんですけどね。本署だと孤立してます……」	
43		お凜様「ここでも独りぼっちになることはないじゃろ？ しばらく見張りを代わるけえ、下で皆と混ざってくるんがええよ」	
44		東森「ええ。そうします」 東森が料理を食べ終わる。 東森「ごちそうさま」 東森が部屋を出ていく。	
45		お凜様が窓から外を眺める。 お凜様「もう、真っ暗じゃのう……」	


場面：脅征会幹部逃走

番号	画面	内容・台詞	時間
46		倉庫前の通路。 井飯を持った奥富がやってくる。	
47		奥富が倉庫の鍵を開けて、中に入っていく。	
48		倉庫内。 色々な物資が積まれている隙間に、拘束された豊岡が転がっている。 奥富「おい、飯だ、食え」 奥富が床に井を置く。	
49		豊岡「おい、拘束されたままじゃ食いにくい。 今だけ縄を解いてくれよ」 奥富「だめだ。そのまま食え」 豊岡「頼むぜ。変なことはしねえからよ」 奥富「信じられるか」	
50		奥富が適当な箱に腰掛ける。 奥富「さっさと食え。手間取らせんな」 豊岡「薄情な奴だ……」 豊岡が這って井に口を近づける。	





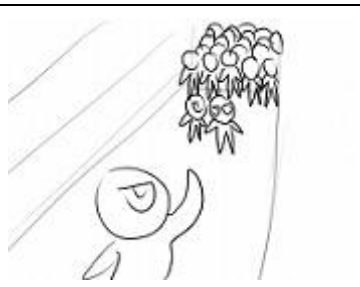
場面：脅征会幹部逃走

番号	画面	内容・台詞	時間
51		豊岡「おい、せめてちゃんと正座させてくれよ。これじゃ食えねえ」	
52		奥富「おめえは犯罪者だということを忘れるなよ。銃で女の子の胸を撃ちやがった」 豊岡「あんなの化け物じゃねえか」	
53		豊岡がこっそり手の親指の関節を外す。 縄から手を抜き出す。	
54		豊岡「なあ、正座させてくれよ」 奥富「だめだ」	
55		豊岡「仕方ねえな……」	

場面：脅征会幹部逃走

番号	画面	内容・台詞	時間
56		豊岡「なら死ね！」 豊岡が奥富に掴みかかる。 奥富「うおっ！」	
57		豊岡と奥富が床でもつれ合う。 豊岡が奥富を殴打する。 奥富「うぐっ、うぐっ……」	
58		奥富が豊岡の腕を掴んで殴打を防ぎ、身を回転させて逆に覆いかぶさり、豊岡を殴打する。 豊岡「うぐっ、うぐっ……」	
59		豊岡が奥富に頭突きする。 奥富「がっ」 奥富がひっくり返って悶絶する。 奥富「うううっ」	
60		豊岡が奥富に覆いかぶさり、何度も殴打する。 奥富「うぐっ、うぐっ……」	

場面：脅征会幹部逃走

番号	画面	内容・台詞	時間
61		奥富が激しい殴打の末に気絶する。	
62		豊岡が立ち上がって倉庫を出る。	
63		倉庫前通路。 豊岡が外に向かって逃げていく。	
64		どこかの小道。 豊岡が走って来る。	
65		豊岡が走っていく先に、小谷田と金子率いる脅征会組員が徒党を組んで歩いているのが見える。 豊岡「親っさん！ カシラ！」 小谷田達の方に走る。	

場面：脅征会幹部逃走

番号	画面	内容・台詞	時間
66		豊岡「ちょうどいいところに！ いつ出て来たんです？」 小谷田「今日だ」	
67		豊岡「入間屋一家に捕まって逃げて来たんです！」	
68		小谷田「知ってる」	
69		豊岡「ぶっ潰して下さい！」	
70		小谷田「おめえのせいだぜ」 豊岡「は？」	

場面：脅征会幹部逃走

番号	画面	内容・台詞	時間
71		小谷田が豊岡に短刀を突き刺す。 豊岡「うぐっ」	
72		金子が豊岡に短刀を突き刺す。 豊岡「どうし、て……」	
73		脅征会組員が豊岡に次々と短刀を突き刺していく。 豊岡「ああ、あああ……」	
74		小谷田が豊岡の頭部を強く鷲づかみして、力を込める。 豊岡「ぐあああ……」	
75		小谷田「ふんっ！」 小谷田が力を込めると、ぐちゃりと何か弾けた音が聞こえる。	

場面：脅征会幹部逃走

番号	画面	内容・台詞	時間
76		頭部が砕けた豊岡が血まみれで倒れる。	
77		血と肉片が付着した小谷田の手。	
78		小谷田「凄まじい……」 熊男が小谷田の背後に現れる。 熊男「それが半妖人の力だ。俺の出る幕もなかったな」	
79		小谷田「おめえら、こうなりたくなかったら、俺に従えよ」 脅征会組員達が、黙ってうなづく。	
80		小谷田「入間屋一家に踏み込むぞ。女子供も容赦するな！」 金子「へい！」 脅征会組員達「へい！」 小谷田達が歩いていく。	